

平成31年度 全国学力・学習状況調査

4月に3学年全員を対象に実施されました「全国学力・学習状況調査」の調査結果について、概要をお知らせいたします。

教科別学習状況の調査結果について

国語、数学、英語の全ての教科において、教科全体の正答率が県・全国の平均正答率を5ポイント以上上回っています。各教科のほとんどの分類（学習指導要領の領域等、評価の観点、問題形式）でも県・全国の正答率を上回っていますが、一部の分類で課題が見られたので、今後の指導に生かしていきたいと考えています。

国語

「国語への関心・意欲・態度、話すこと・聞くこと、読むこと、言語についての知識・理解・技能」の四つの観点で、県・全国の平均正答率を3～8ポイント上回っています。しかし、「書くこと」の観点では、全国平均を2.0ポイント下回りました。特に「書いた文章を読み返し、論の展開にふさわしい語句や文の使い方を検討する」設問で課題が見られました。今後は、自分の意見を述べたり、文章に書いてまとめたりする言語活動を多く取り入れていきます。

数学

「数と式、図形、関数、資料の活用」全ての領域で、県・全国の平均正答率を6～15ポイント上回っています。観点別では「技能」が75.9%(全国平均63.9%)、「知識」が74.7%(全国平均71.3%)という結果になり、基本的な知識と計算の技能が身に付いていることが分かります。全国的に課題として捉えられている「見方や考え方」についても62.2%(全国平均51.0%)と良好な結果となっています。今後も学習プリントを活用し、継続的に知識と技能が身につくように指導し、教え合いなどの活動も多く取り入れていきたいと考えています。

英語

「聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと」の四つの観点において全国の平均を3～16ポイント上回っています。今年度、初めて実施された「話すこと」についての調査では、全体的には全国の平均をやや上回っていますが、設問ごとに見ると下回っているものもあります。今後は、「聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと」それぞれの力をバランスよく伸ばしながら、自分の意見を話したり、書いたりする活動を授業にさらに取り入れていきます。

生活習慣・学習習慣の調査結果について

多くの項目は全国とほぼ同じ傾向でしたが、その中で、比較的差があったものをいくつかとりあげます。
(1. 当てはまる 2. どちらかといえば当てはまる 3. どちらかといえば当てはまらない 4. 当てはまらない)

質 問 項 目	旭 中	全国平均
学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む) (1.(3時間以上と答えた生徒)の割合)	19.4%	9.9%
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか(1の割合)	51.4%	78.3%
人の役に立つ人間になりたいと思いますか(1の割合)	44.4%	71.1%

※学校の授業以外の勉強時間が多い傾向があります。いじめに対する意識や人の役に立とうという意識に課題が見られます。自己有用感をさらに高める教育を工夫、実践しながら、課題解決を図っていかうと考えています。